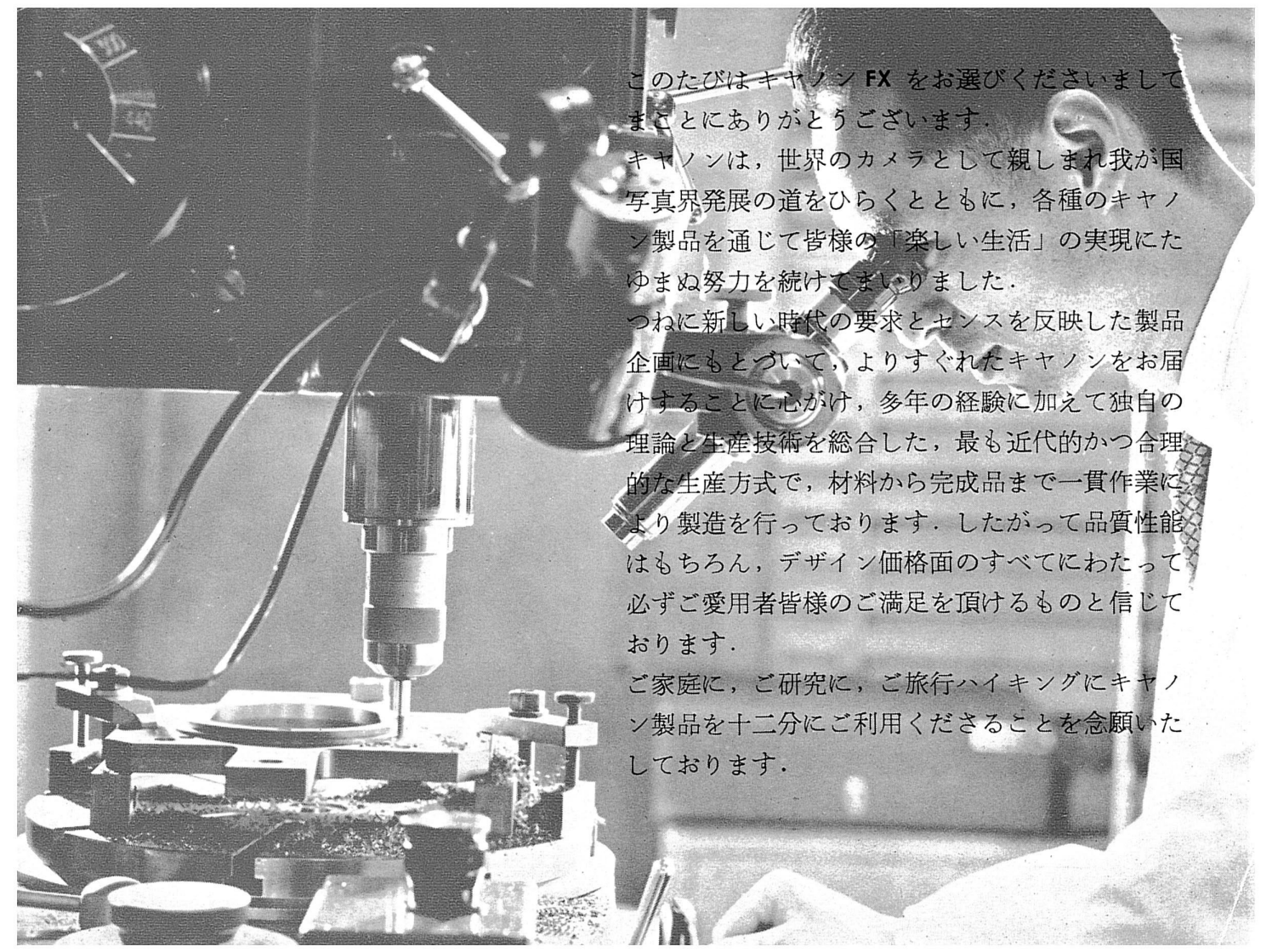




Canon
FX
使用説明書

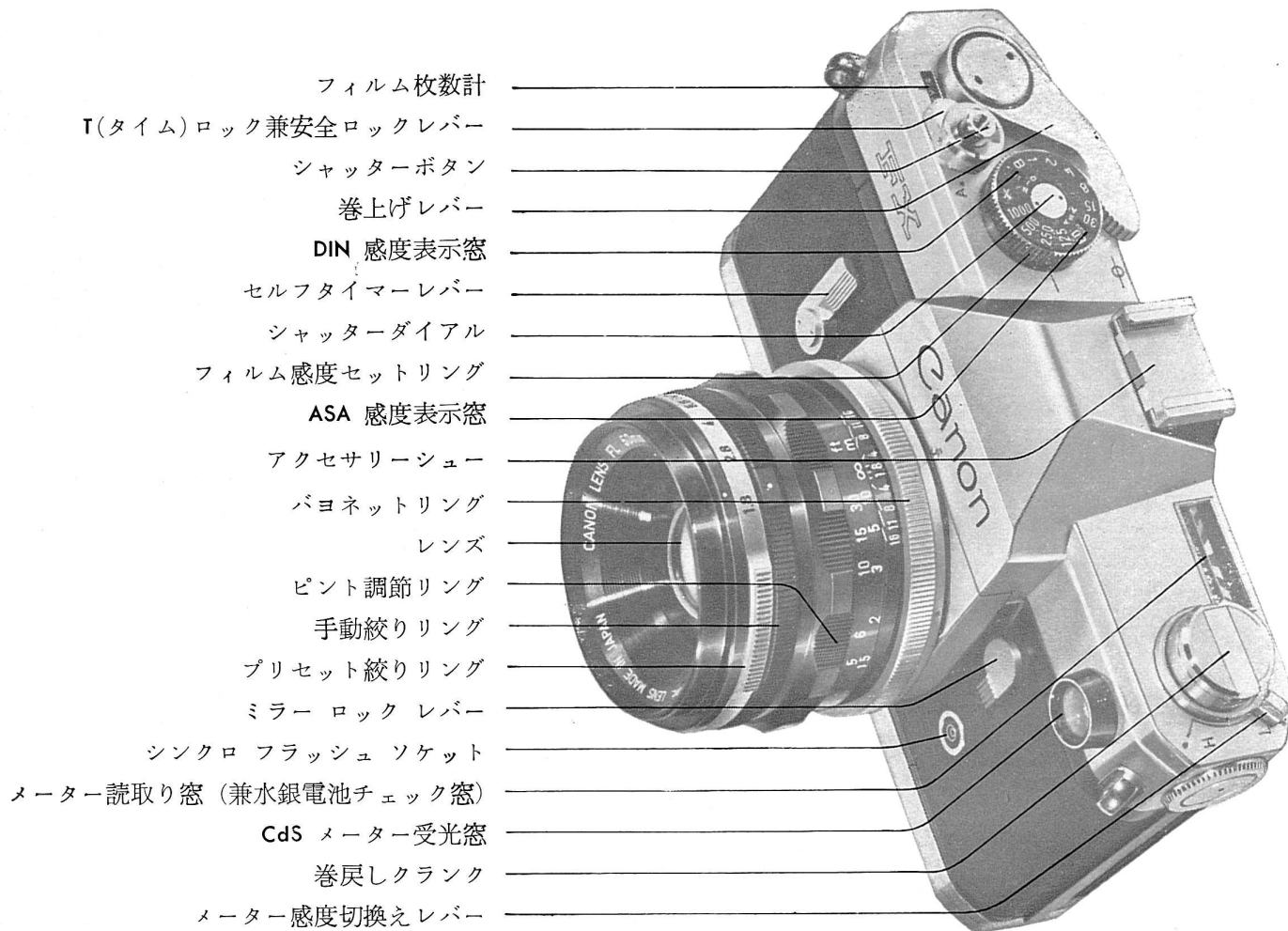


このたびはキヤノン **FX** をお選びくださいましたこと
にありがとうございます。

キヤノンは、世界のカメラとして親しまれ我が国
写真界発展の道をひらくとともに、各種のキヤノ
ン製品を通じて皆様の「楽しい生活」の実現にた
ゆまぬ努力を続けてまいりました。

つねに新しい時代の要求とセンスを反映した製品
企画にもとづいて、よりすぐれたキヤノンをお届
けすることに心がけ、多年の経験に加えて独自の
理論と生産技術を総合した、最も近代的かつ合理
的な生産方式で、材料から完成品まで一貫作業に
より製造を行っております。したがって品質性能
はもちろん、デザイン価格面のすべてにわたって
必ずご愛用者皆様のご満足を頂けるものと信じて
おります。

ご家庭に、ご研究に、ご旅行ハイキングにキヤノ
ン製品を十二分にご利用くださることをお願いいた
しております。



フィルム枚数計

T(タイム)ロック兼安全ロックレバー

シャッターボタン

巻上げレバー

DIN 感度表示窓

セルフタイマーレバー

シャッターダイアル

フィルム感度セツトリング

ASA 感度表示窓

アクセサリシュー

バヨネットリング

レンズ

ピント調節リング

手動絞りリング

プリセツト絞りリング

ミラー ロック レバー

シンクロ フラッシュ ソケット

メーター読取り窓 (兼水銀電池チェック窓)

CdS メーター受光窓

巻戻しクランク

メーター感度切換えレバー

キャノン FX の主要性能

型式：35 mm フィルム用 1 眼レフレックスカメラ。

ファインダー：ペンタゴナル ダハ プリズム使用のアイレベル ファインダー。ウエストレベル ビューワ－ 2 型取付け可能。

ピントグラス：フレネルレンズ使用，特殊処理の高解像力性ピント グラス。スプリット イメージ距離計内蔵。

ミラー：ノンショック クイックリターン式。ミラー上方固定可能。

標準レンズ：FL 50 mm F 1.8, F 1.4, FL 58 mm F 1.2 FL 50 mm F3.5 (マクロ)

絞り：完全プリセット自動絞り装置内蔵，プリセット解除可能。

シャッター：倍数系列 1/1000~1 秒等間隔目盛および B (T) X, 一軸ダイヤル フォーカルプレーンシャッター。

内蔵メーター：シャッター ダイアルに連動する 追針式 CdS メーター，ASA 100・F 1.4 1 秒 (EV1) ~F 16 1/4秒 (EV10), F 1.4 1/250 秒 (EV9) ~F 16 1/1000 秒 (EV18) の高低 2 段切換え式。

使用感度は ASA10~800. MD 型 1.3 V 水銀電池 1 コ使用。

バッテリーチェッカー：水銀電池用チェッカー内蔵。

シンクロフラッシュ：FP 接点および X 接点。FP 級，M 級，MF 級，スピードライトに同調可能。タイムラグ自動調整式。JIS B 型ターミナル。

内蔵セルフタイマー：シャッターボタンで始動する時限調節式。

巻上げレバー：1 作動 160° 回転レバー，小刻み巻上げ可能。

フィルム巻戻し：巻戻しボタンおよびクランクによる。

フィルム装填：裏蓋開閉式，パトローネ専用。

交換レンズ：自動プリセット絞り式各種。FL 系列。

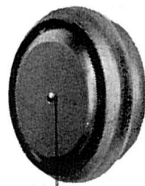
フィルム枚数計：自動復帰順算式。

大きさ・重量：141×90×43mm/670g (ボディのみ)
その他，各種安全装置，アクセサリ完備など

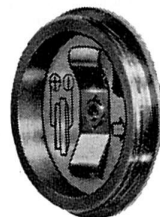
目次

水銀電池のつめ方とバッテリーのチェック	5
カメラご使用のはじめに	6
巻上げ	7
巻上げレバー シャッター安全ロック フィルム枚数計	
シャッターと絞り	9
シャッターダイヤル プリセット絞り プリセット絞り解除	
連動メーターの使い方	13
準備 露出のきめ方 メーター感度	
カメラの構え方	18
ピントの調節	20
スプリットイメージ 視度補正レンズ ビューワー	
撮影手順	23
フィルムのつめ方	25
フィルムの巻戻し	31
セルフタイマー	32
フラッシュ同調	33
レンズの取扱い	34
レンズのつけはずし 距離目盛 赤外指標 被写界深度	
ミラー上方固定	39
二重露出	40
フィルター	41
カメラの保存と手入れ	43

水銀電池のつめ方



中心接点



別封の水銀電池を電池室につめてください。
水銀電池は内蔵の CdS メーターの電源ですから、
これを入れ忘れるとメーターが作動しません。

1. 水銀電池室カバーに指の腹を押しあててなどして左回しに回してはずし、
2. 水銀電池の中心接点のある方を奥に向けて押しこみ、カバーをねじこみます。

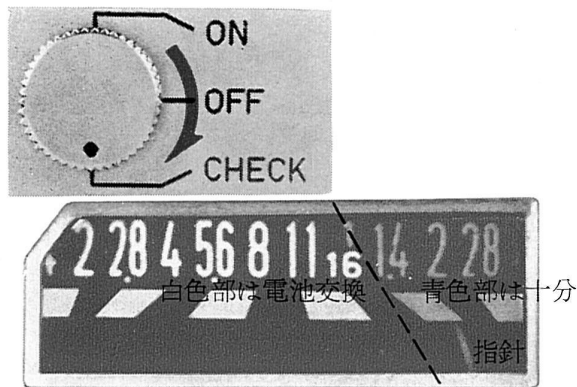
挿入のさい ⊕ ⊖ を間違えぬこと。逆に入れますとメーターが正しく作動しませんし、カバーもねじこめません。

* 水銀電池はナショナル製 M-1D 型または東芝製 TH-MC が使用でき、米国の Mallory RM 625R, Eveready E625, General No. 625 に相当するものです。約 1 カ年の連続使用に耐えます。

* 汗や指紋をつけぬこと

水銀電池は乾いた布でよく拭いてから入れてください。汗や指紋をつけると腐蝕の原因になり殊に中心接点は汚れをきらいます。汚れたまま挿入しますとカメラの接点を損うおそれがありますから、十分ご注意ください。

* 長期間使用しないときは、水銀電池をはずして乾燥した場所へ保存しておいてください。



バッテリーチェック

水銀電池を挿入したときは、必ずバッテリーチェックをしておきます。特に市販の新電池と交換したときはその電圧を確かめる必要があります。

1. 回路切換えスイッチを回して **CHECK** に指標を合わせる。
2. メーター指針の振れで電池の良否を確かめます。指針が縞目ガイドライン右側の青色部まで振れれば電圧は十分、左側白色部で止まれば不十分で、電池の交換を要求しているわけです。

ご使用のはじめに

慣れることが大切です

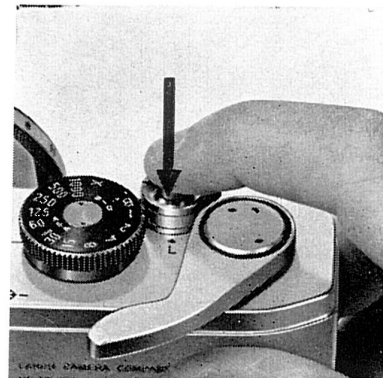
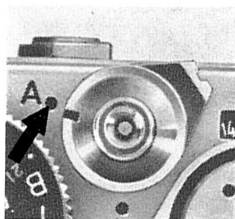
カメラをお持ちになったら、まず各部の扱い方をマスターしましょう。フィルムをつめる前にレバーの巻上げや、メーターの使い方などを一度試して、完全に自分の頭の中に入れてください。そうすればあなたの目と同じようにカメラを思いのままに駆使することができます。

使用書をお読みください

カメラも機械ですから、正しい扱い方があります。必ず使用書をお読み頂き、つまらぬ失敗をさけてください。

操作の手順として、まず巻上げからご説明いたします。

巻 上 げ



巻上げレバーはシャッターとフィルムの巻上げ、ミラーと絞りの作動チャージなど内部機構の巻上げを一回で行うものです。

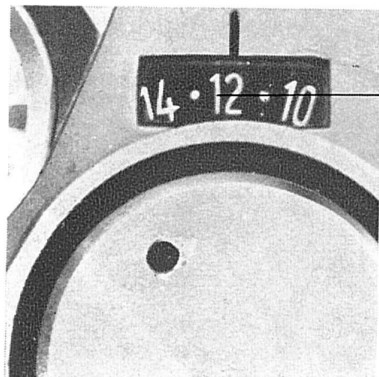
巻上げレバーを完全に止まるまで回すとフィルムが1コマ分送られてシャッターが巻上げられます。同時にフィルム枚数計も1目盛進みます。

シャッターボタンを押すとミラーがはね上り、同時にプリセット位置までレンズが絞られ、シャッターが作動します。

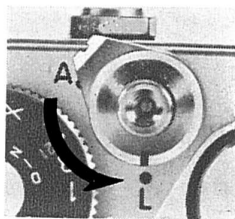
巻上げレバーは、シャッターの作動後、直ちに巻

上げできる状態になります。

- * シャッターボタン安全ロックの指標がAの位置にないとレバーの巻上げができません。
- * 巻上げは、レバーを小刻みに動かしてもできません。
- * 巻上げが完全でないと、シャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合には、もう一度巻上げを確かめてください。
- * フィルム装填後の、第1回目の巻上げのときレバーが空送りすることがありますから念のためもう一度巻上げてください。



フィルム枚数計

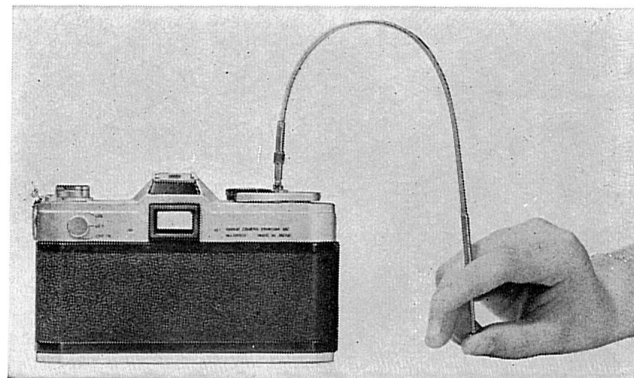


撮影枚数表示

フィルムが1コマ巻上げられるごとにフィルム枚数計が1目盛進んでフィルムの撮影枚数を知らせます。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマークSまで戻ります。

シャッターの安全装置

シャッターボタンのまわりにある、安全ロックをLの位置に回すと、シャッターボタンはロックされて動きません。巻上げたままの携行にご利用ください。



レリーズの取付け

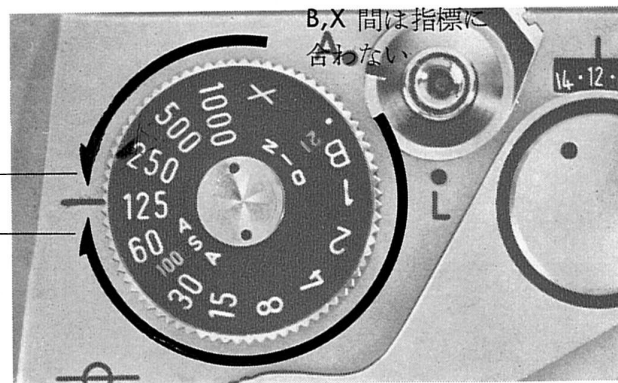
シャッターボタンには、ケーブルレリーズがつきます。

レリーズを取付けるにはレバーを巻上げる前に行ってください。

レリーズを使う場合は、安全ロックレバーがLの位置にあってもシャッターが作動しますからご注意ください。

シャッターと絞りの調節

Xで止まったら
反対に回す
Bで止まったら
反対に回す



シャッターを開いてフィルムに光を与えることを露出または露光といいます。シャッターと絞りは、この露出の調節をするもので、シャッターは露出時間の調節を行い、絞りは光の量を調節します。FXでは連動メーターを使用して、簡単に適正露出が得られます。(13頁)

シャッターダイヤル

これを回して、必要の目盛を指標に合わせるとスピード調節が行われます。

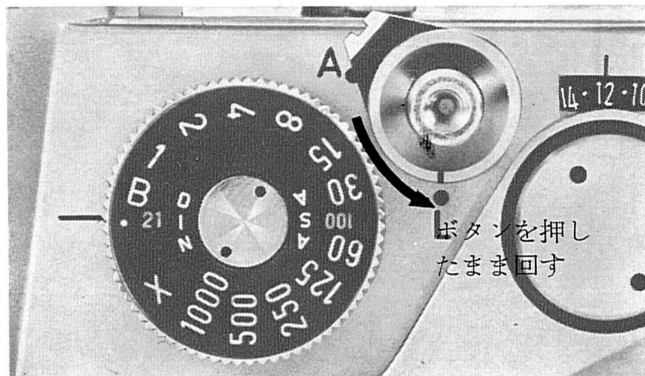
ダイヤル上の目盛は 1/1000 秒， 1/15 秒などとい

う場合の分母が目盛られています。

* X，B 目盛の間は回転できません。

* B はバルブ露出で、シャッターボタンを押している間シャッターが開いていますから、1 秒以上の長時間露出に用います。

* 極長時間の T (タイム) 露出が必要のときは B にセットし、シャッターボタンを押したまま、T ロックレバーを回して指標を L に合わせてください。こうすると指を離しても露出が続けられレバーを A に戻すとシャッターがしまります。



- * **T** 露出はロック付ケーブルリリースを利用することによってもできます。
- * **X** 目盛はスピードライトの同調用です。シャッタースピードとしては $1/60$ 秒ですが、実際にはスピードライトの閃光時間だけのごく短い露出に相当します。
- * 目盛のセットはカチッと止まるクリックストップのかかる位置に行ってください。特に **B** 目盛の場合は下の白点に合わせてください



レンズの絞り

プリセット絞りリングを回して必要な目盛を指標に合わせます。これによって光量調節や被写界深度 (37 頁) の調節が行われます。

プリセット絞り 自動的に絞り込まれる絞りの大きさを調節する機構で、このリングを回して目盛を指標に合わせておくと、シャッターが切れる瞬間だけその絞り値まで絞り込まれます。

普段は絞り羽根は全開になっています。

つまりプリセット絞りリングは、自動的に絞りこまれる絞りの大きさを予めきめておく調節リングです。

自動絞りの解除（手動絞り）

普通撮影で被写界深度の確認をする場合に絞りこむために用いられます。

手動絞りリングを回すと、プリセット絞り値まで絞りこむことができ、これによって得られた状態のピントをしらべることができます。

絞り効果を見終ったら再び開放に戻しておいてください。

この手動絞りリングはプリセット絞りリングが開放のときは動かさないでください。

- * ただし、FL 50 mm F1.4、マクロ FL 50 mm F3.5、FL 19 mm F3.5 Rは A-Mマークをもち、M 位置では、プリセット絞りリングを使って手動で自由に絞り羽根を変えることができます。
- * 絞りは、その数値が大きくなるに従って暗くなり、目盛の一段ごとに明るさが半分になるようになっていきます。したがって絞りを1目盛絞りこんだときは露出時間を2倍にし、2目盛絞りこんだときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の間でも用いることができます。レンズによっては、最大口径の絞りと次の



プリセット
絞りリング

手動絞り
リング

絞りとの間にだけ、明るさ半減の関係にないものもあります。キャノン FX では連動メーターによりシャッタースピードに対応する絞り値を容易にきめることができます。

- * 絞り目盛と露光量の比率は F2 を基準として次の通りです。

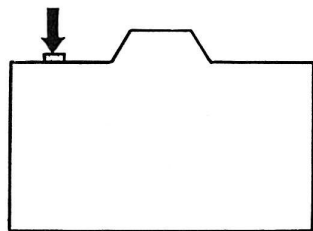
絞り値

1.2 1.4 1.8 2 2.8 3.5 4 5.6 8 11 16 22

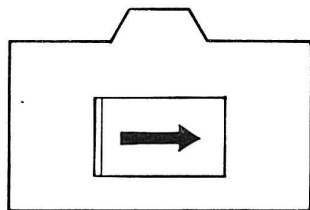
露出比率

1/3 1/2 1/1.2 1 2 3 4 8 16 32 64 128

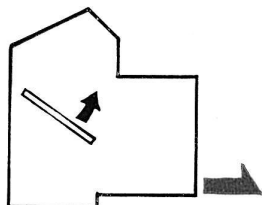
ミラーと絞りとシャッターの関係



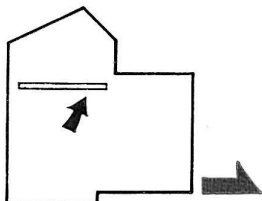
シャッターボタンを押す



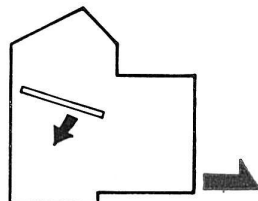
シャッターが切れる



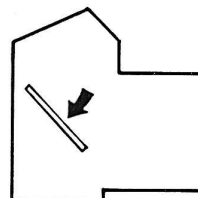
ミラーが上がりはじめる



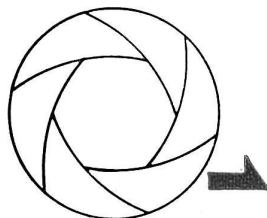
ミラーが上がる



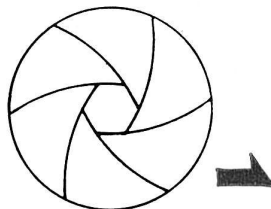
ミラーが下がりはじめる



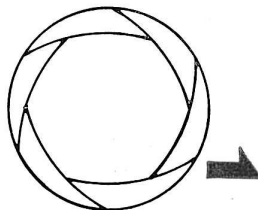
ミラー正位置に復帰



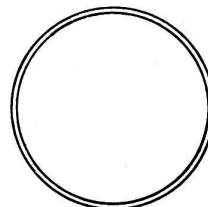
絞りが閉じはじめる



プリセット位置まで絞られる



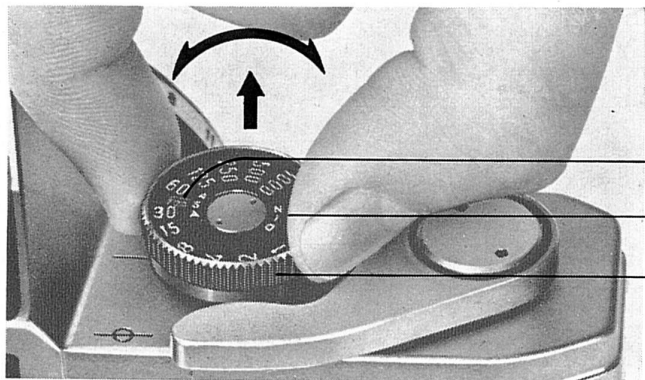
絞りが開きはじめる



絞り開放となる

シャッターボタンを押す ①レンズが絞られる ②ミラーが上がる ③シャッターが切れる ④絞りが開きミラーが戻る

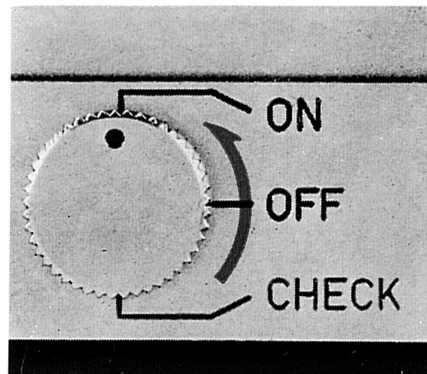
連動メーターの使い方



ASA 感度表示窓

DIN 感度表示窓

外側の感度セッティングを持上げて回す



キヤノン **FX** のメーターはシャッターダイヤルに連動している追針式で、被写体の明るさに応じてつねに適正露出撮影が簡単に行えます。露出のきめ方にはシャッターを先に選ぶ場合と絞りを先に選ぶ場合の2通りありますが、いずれにも習熟されることが、良い写真を写すためにも必要なことです。

その準備

1. 使用フィルムの感度を小窓に出します。それにはシャッターダイヤル周囲の感度セッティングを持ちあげて回してやります。
フィルムが**SS** なら **ASA** の小窓に **100** を出し落しこみにセットします。

* 小窓に **ASA 10** が出たときは、それ以上左へ回

せません。逆に **800** が出たときは右へ回せません。

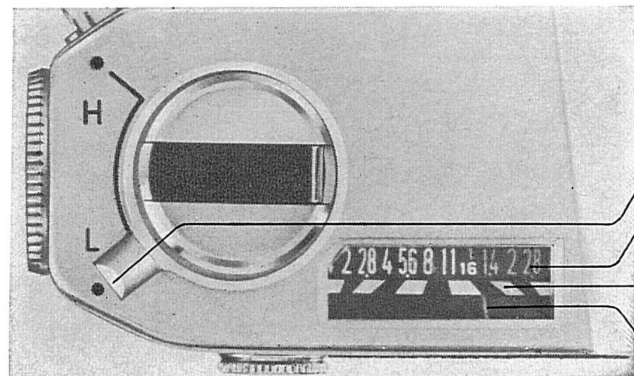
* 使用できるフィルム感度。

	(12)	(20)	(32)	(40)	(64)	(80)	(125)	(160)	(250)	(320)	
ASA	10	16	25	•	50	•	100	•	200	•	400
DIN	11	13	15	•	18	•	21	•	24	•	27
	(12)	(14)	(16)	(17)	(18)	(20)	(22)	(23)	(25)	(26)	
	(500)	(640)									
	•	•	800								
	•	•	30								
	(28)	(29)									

カッコ内の数字は中間の点に相当する感度です。

* フィルムの感度は外装箱か説明書に明示されています。

2. スイッチを **ON** に回します



高感度用黄橙点
(室内用)

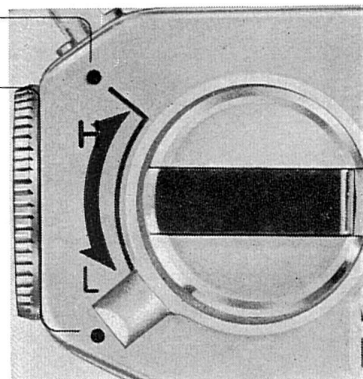
低感度用黒点
(日中戸外用)

メーター感度切
換えレバー

メーター絞り目盛

ガイドライン
(縞目)

指針



3. メーター感度をきめておきます.

通常の明るい戸外では感度切換えレバーを回
わして低感度用 L の黒点に合わせます.

室内または日没前の戸外では黄橙点に合わせ
ておきます.

* メーターの感度は高低 2 段切換え式です. 高感
度用(暗い被写体)では ASA 100 のフィルムに対
して LV 1 ~ LV 10 (1 秒 F 1.4 ~ 1/4 秒 F 16) 低感度
用(明るい被写体)では LV 9 ~ LV 18 (1/250 秒 F
1.4 ~ 1/1000 秒 F 16) です.

4. 低感度で使用するときはメーター指示窓の絞 り目盛は白色数字を用い, 高感度の場合には 黄橙色数字を用います

1



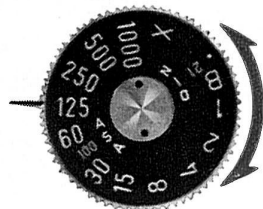
2



3



4

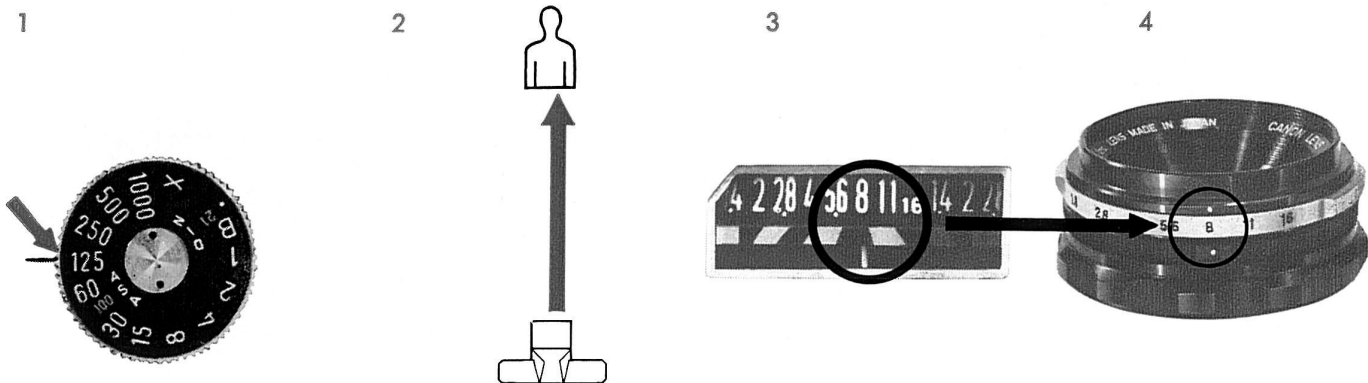


露出のきめ方 1

1. レンズの絞りをセットします。
2. 被写体はカメラを向けるとメーター指針の位置がきまります
3. シャッターダイヤルを回してレンズの絞りと同じ数字を指針の止まっているガイドライン（縞目）に合わせます。
4. シャッターダイヤルは クリックストップの位置にセットしてください。

これで適正露出にセットされたわけです。

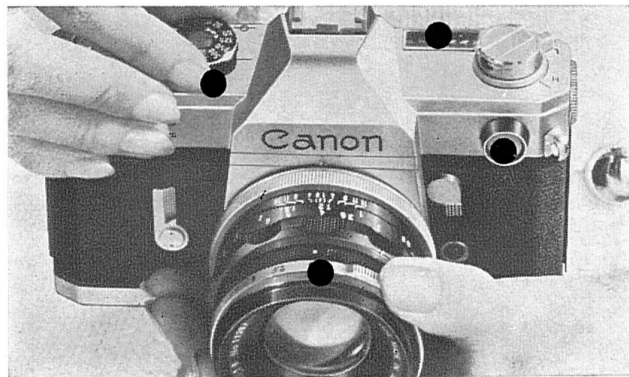
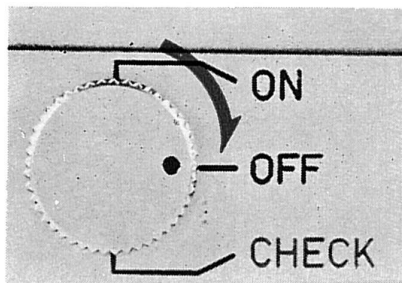
- * 明るさを測定するときメーター受光窓を手でふさがぬようご注意ください。
受光角が約40°ですから余分な光に妨げられず、主被写体を正確に測定することができます。
- * シャッターダイヤルの **B** 目盛, **X** 目盛は意味がありませんから用いないでください。
B は1秒以上の長時間露出, **X** はスピードライト（ストロボ）用ですから露出計では測定できません。
- * 絞り目盛の読取りはガイドラインに沿って行います。
- * メーター使用中明るさの変化によって針の動きが鈍る場合がありますが **CdS** の特性によるものですから心配ありません。



露出のきめ方 2

1. 希望するシャッタースピードをセットして、
2. カメラを被写体に向けます。

7. 指針の指示する絞り目盛を読みとり、レンズの絞りをセットします



- * シャッターダイヤルは目盛の中間が使いませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合はシャッタースピードを先にきめ、これに応じて絞りを加減することが最も合理的といえましょう。
- * カメラを長く使用しないときは必ずスイッチをOFFにしておいてください。またバッテリーチェックも必要に応じて行ってください。

空、雲、海などのような明るい風景をバックにして人物撮影を行うときには、人物が露出不足になることがあります。これはメーターが明るいバックに感じすぎ、かんじんの人物に正しい露出を示さないからです。このようなときには被写体の近くで測定してください。逆光線下の撮影では特に注意してください。

逆光撮影ではバックあるいは主被写体のいずれに重点をおくか、あらかじめ結果を予測して露出をきめることが大切です。

またメーター指針を読取るときもカメラを上向きにしがちですからご注意ください。

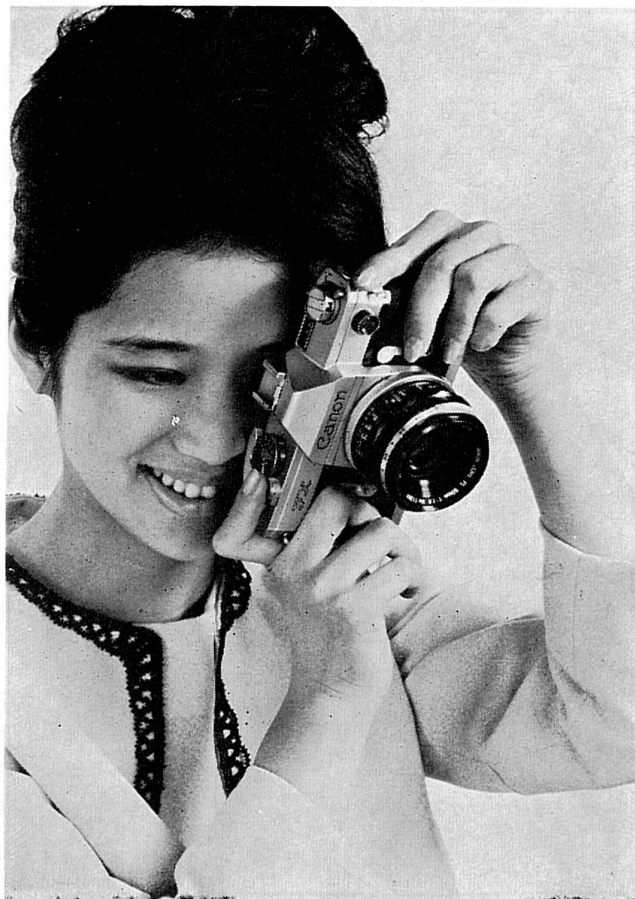


撮影の際カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるために最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って写真のように持ち、ファインダーを覗いて構図の決定をすると同時にピント合わせをし、それから静かにシャッターを切ります。その際特に次のことが大切です。





1. 両手は努めて深くカメラを握り込むこと.
 2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること
 3. 横位置のときは両ひじ, 縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること.
- シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラぶれの原因になります.
 - 撮影には三脚とレリーズを使う方が確実です.
特に1/30秒以下のスローシャッターを切るときはこの点にご注意ください

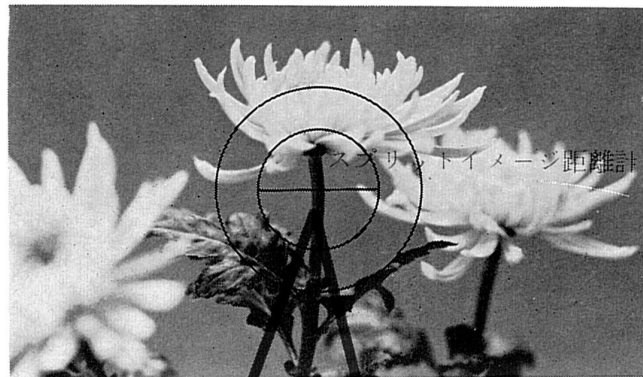


ピントの調節

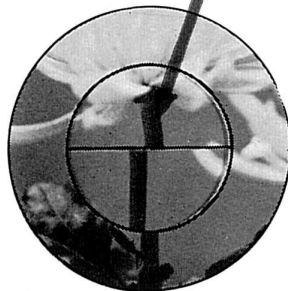


レンズキャップをはずし、ファインダーを覗きながら、レンズのピント調節リングを回します。

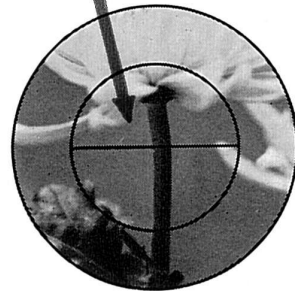
ファインダー視野



ファインダー視野の中央にある円形内の像が中央の線を境として左右にずれたときピントがはずれ、上下の像が一致したとき、ピントが合います。



ピントがはずれている



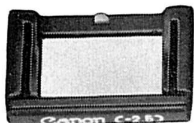
ピントが合っている



+1.5



0



-2.5



-4(ジオプター)

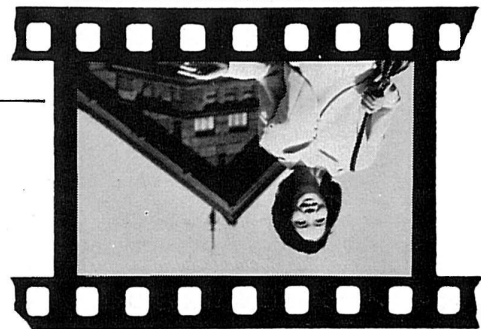
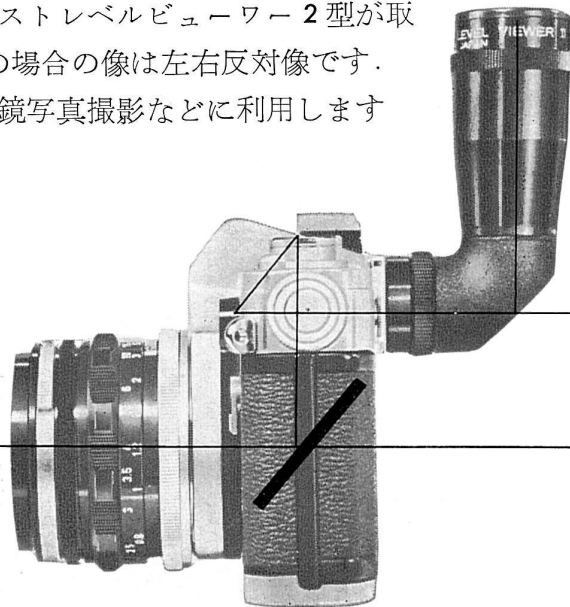
- * ファインダーには視度補正レンズが用意されており、これを取付けると遠視や近視眼の方が眼鏡なしで使用できます。
- * 中央円形部はピントグラスではありません。距離計としてのみご使用ください。
- * ピントグラス面で焦点合わせをする場合には中央円形部以外のところでおこないます。



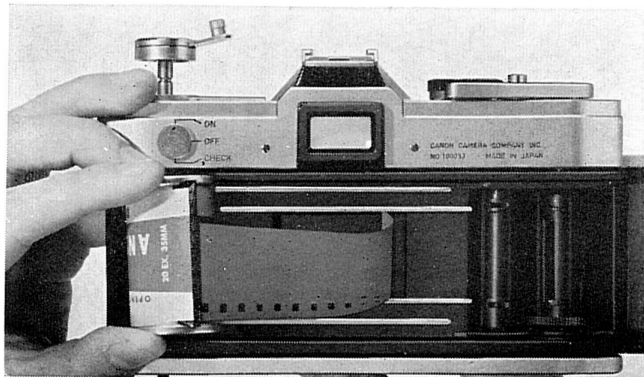
構図とファインダー

ピントガラス面には、フィルムに写しこまれる画面がそのまま眺められ、パララックスもありません。したがってファインダーどおりに構図がきめられます。

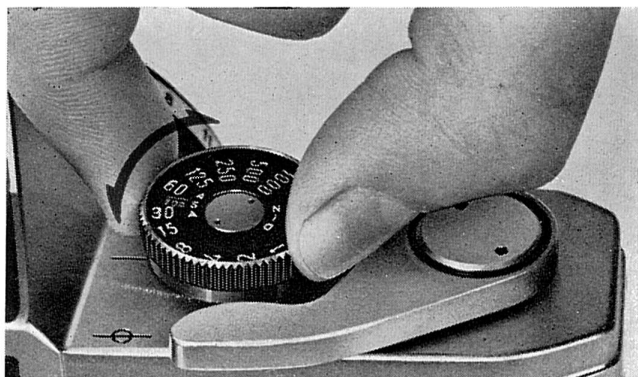
* 接眼部にはウェストレベルビューワー 2 型が取り付けできます。その場合の像は左右反対像です。複写・拡大・顕微鏡写真撮影などに利用します



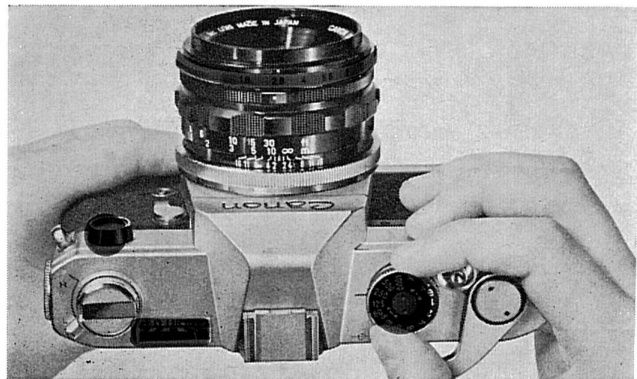
撮影の手順



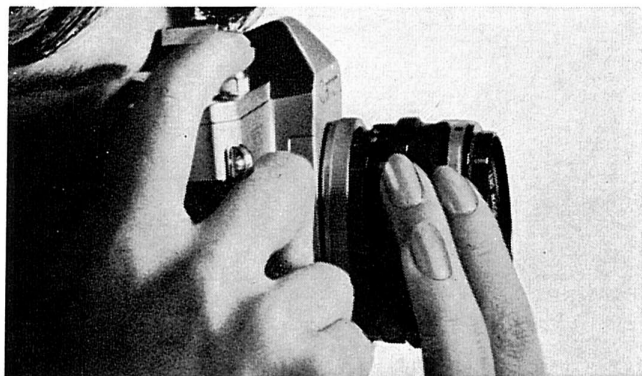
1 フィルムをつめる



2 感度を合わせる



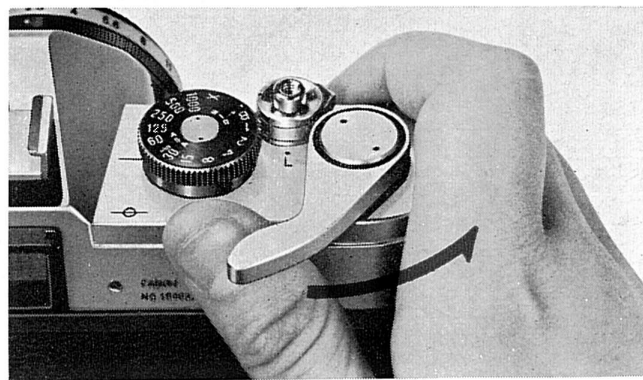
5 メーターで露出をきめる



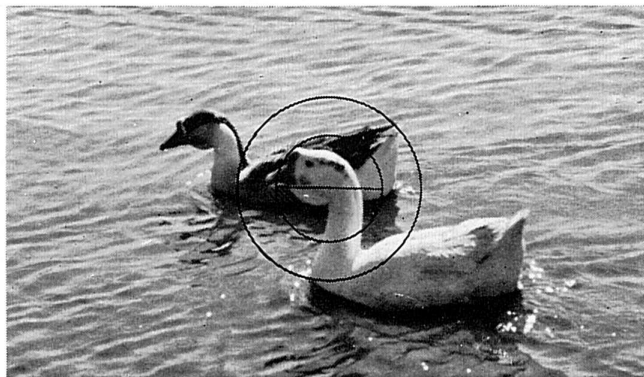
6 ファインダーをのぞく



3 キャップをはずす



4 レバーを巻上げる

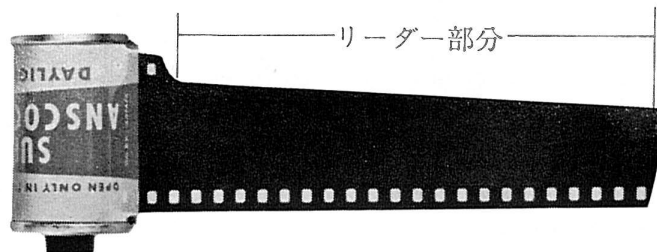


7 ピントを合わせ 構図をきめる



8 シャッターボタンを押す

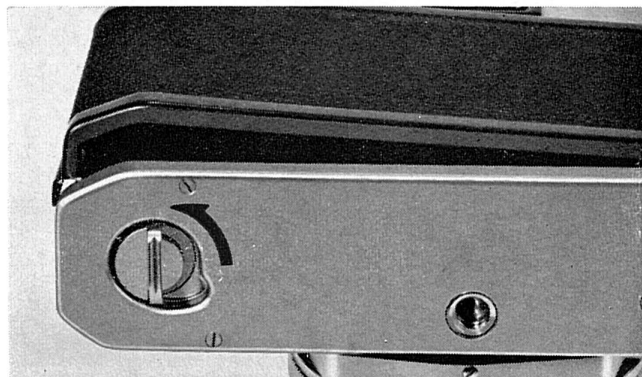
フィルムのつめ方



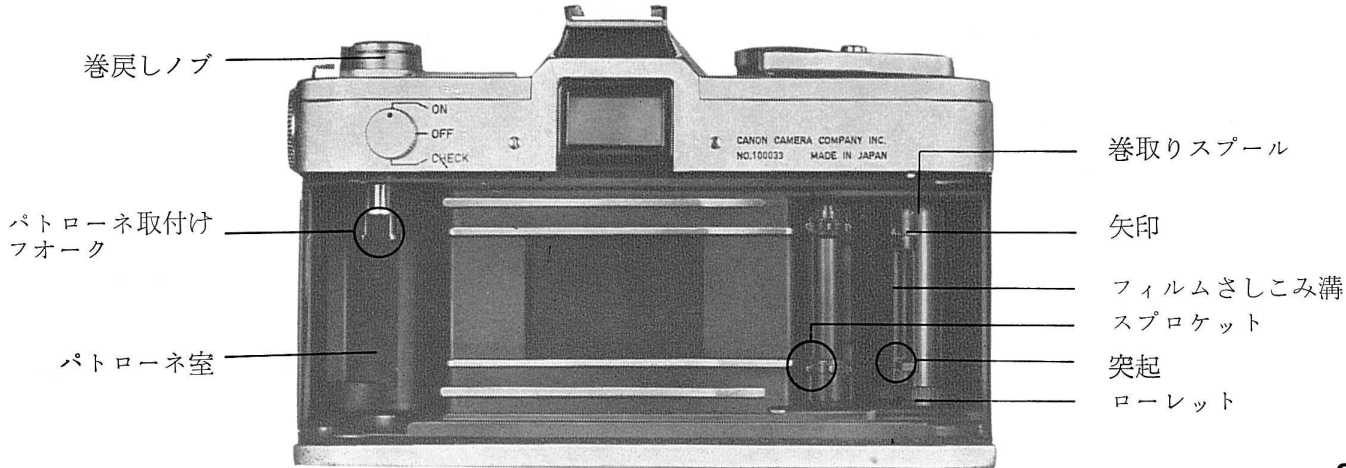
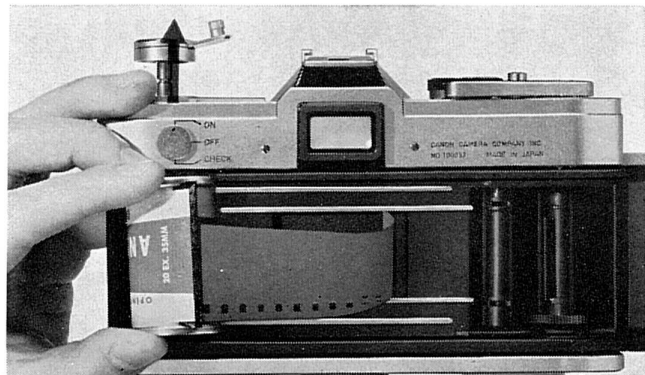
フィルムを入れる向き（乳剤面は向う側）

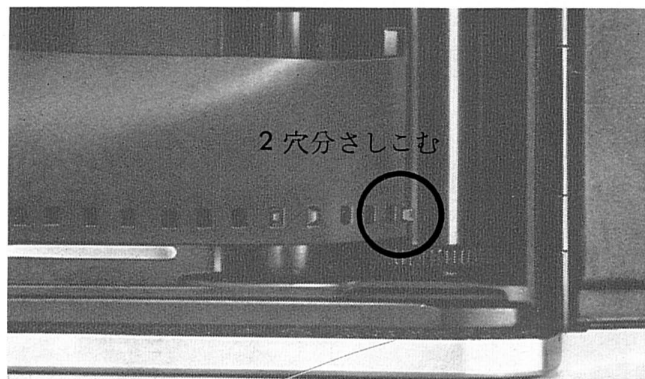
使用フィルム：市販の日中装填用パトローネ入り
35mm フィルムをご注意ください。

取扱い：装填の際は直射日光下を避け、やむを得ないときは太陽に背を向けて、す早くお取扱ください。



1. 裏蓋を開きます。
開閉つまみを引起して左回しに半回転すると裏蓋が浮上ります。
2. パトローネを入れます。
巻戻しノブを十分に引上げ、パトローネを収めたら、再びノブを元の位置に押し戻し、フックをパトローネ軸にさしこみます。ノブが十分戻りきらないときには、左右に僅か回すようにすると収まります。

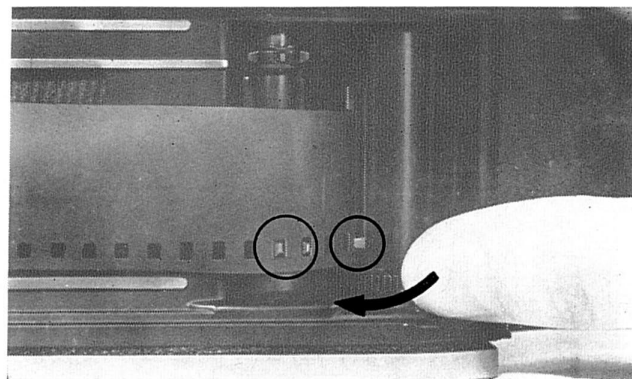




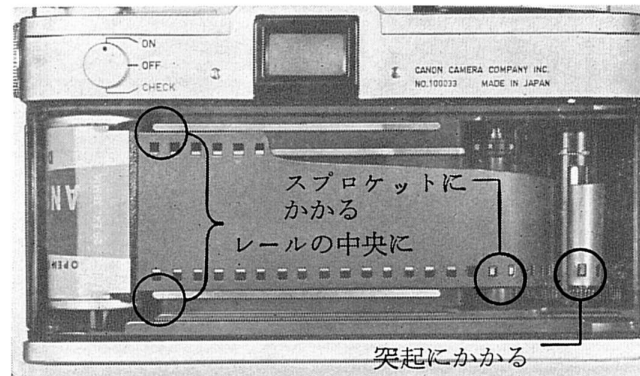
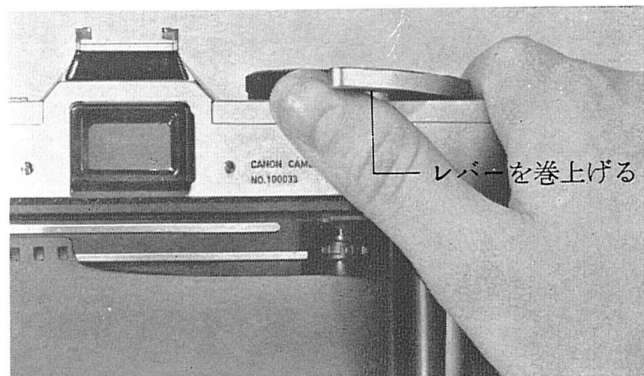
3. フィルムをさしこみます。

溝が反対側にかくれているときには、ローレットを矢印方向に回して手前に出します。
フィルム先端を僅かに引出し、曲らぬよう注意しながらこの溝に十分さしこんでください。

さしこむ量はパーフォレーション2穴分が適当です

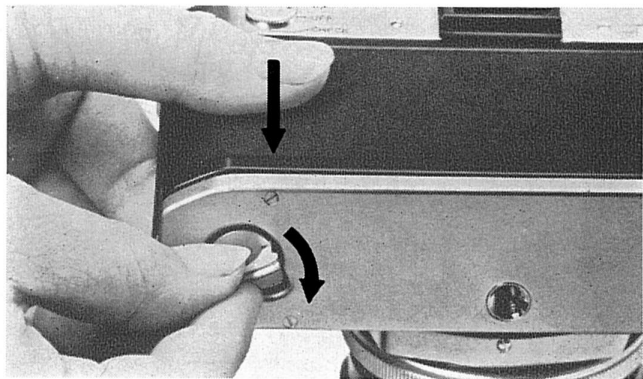


4. 続いてローレットを矢印方向に回しながら、溝ぎわの突起をフィルムの孔にかけ、更にスプロケットからもはずれないよう確かめたのち、



5. 巻上げレバーを回して、フィルムを約1回
スプールに巻取ります

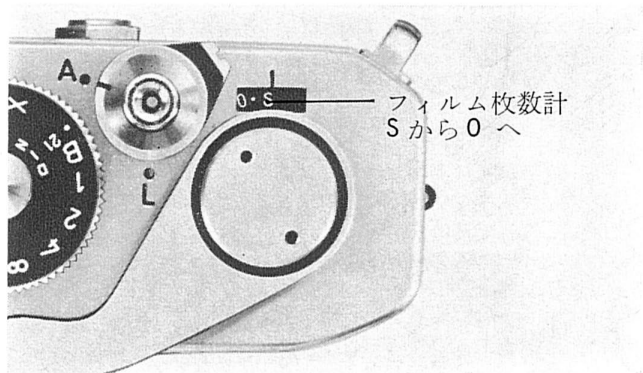
6. フィルムにたるみがあれば、巻戻しクランク
を起して右回しに静かに回してたるみを取り.



7. 裏蓋を閉じます

浮上がらぬよう押さえて，開閉つまみを回してください．

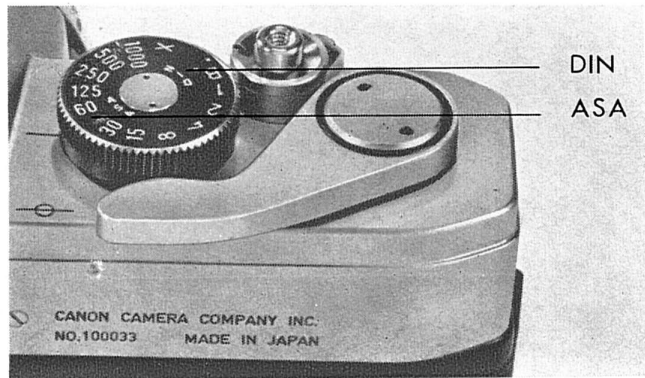
巻戻しクランクを折畳んでください．



8. 2回空写し

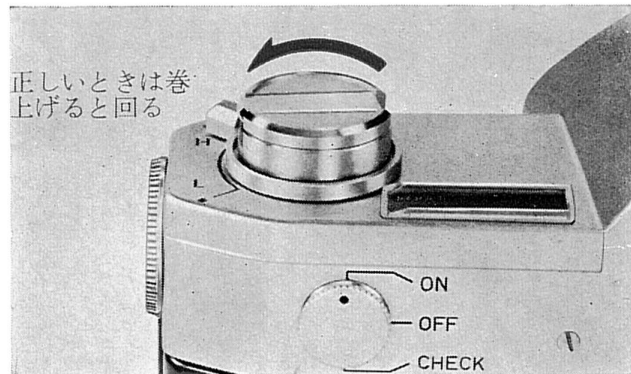
レンズキャップをかぶせたまま，巻上げてシャッターを切る操作を2回繰返してください．

フィルムカウンターのマークがSから0になります．次に巻上げると1枚目の撮影準備ができます．



フィルムの感度表示

フィルムの装填をしたときには、忘れずにそのフィルム感度を、シャッターダイアルの小窓に表示しておきます。セットのしかたは13頁のフィルム感度の合わせ方をごらんください。

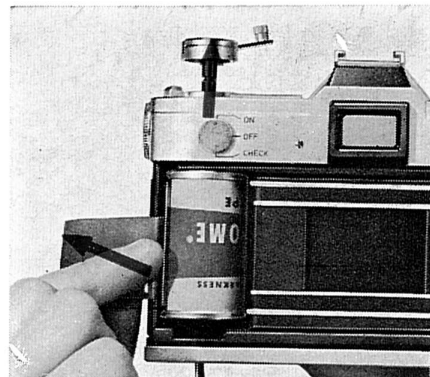
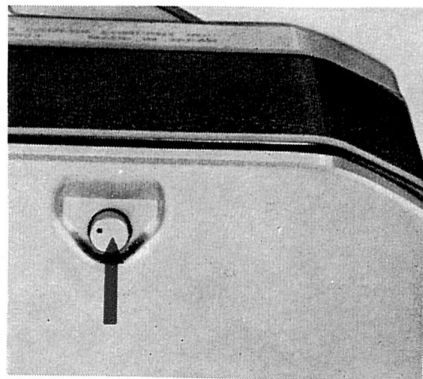


“正しいフィルム装填”の確かめ

巻上げをするたびに、巻戻しノブが反時計方向に回ればフィルムが正しく装填されている証拠です。もし回らなければフィルムがスプールから抜け出しているか、パーフォレーションがスプロケットからはずれている場合です。

失敗を防ぐためにもフィルムをつめたときは、いつもこれを見るようにお勧めします。またフィルムが送られていないときは一旦巻戻し（31頁）てから装填し直してください。

フィルムの巻戻し



フィルムが終りになると巻上げができなくなりますから、次の順序に従ってフィルムを直ちに元のパトローネに巻戻します。撮影されたフィルムはカメラの中で裸のまま巻取られていますから巻戻さずに裏蓋を開くと全部無駄になります。ご注意ください。

1. 巻戻しボタンを押しこむ。
2. クランクで巻戻す。巻戻しクランクを引起し、矢印方向に回し、フィルムを元のパトローネに巻戻します。

巻戻し中、巻戻しボタンの回転が止ったら（巻戻し抵抗が軽くなる）直ちに巻戻しを中止します。

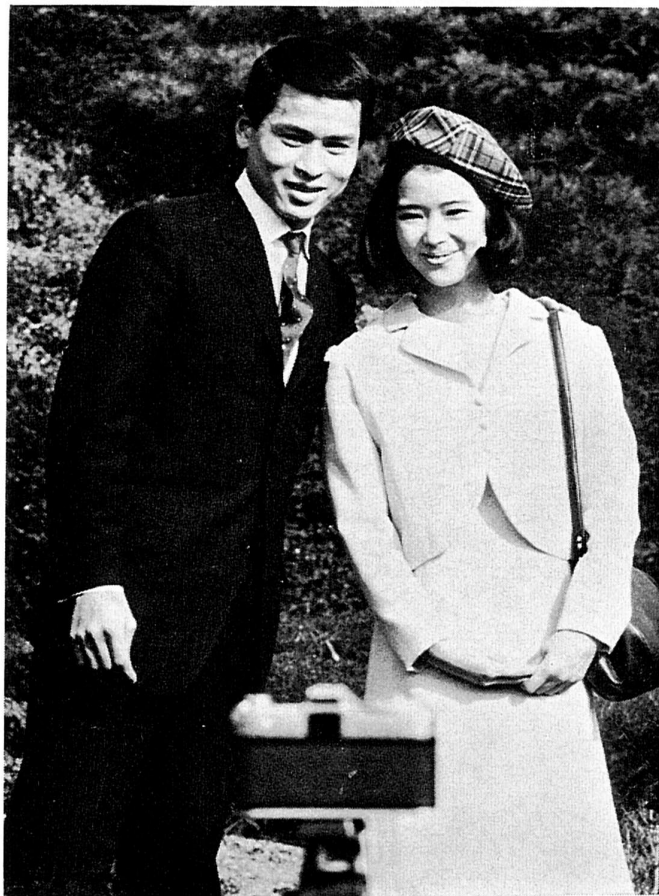
3. 裏蓋を開き

4. パトローネを取出します

巻戻しノブを十分引上げて取出してください。

* 巻戻しボタンは、一度押したなら指を離してもさしつかえありません。レバーを巻上げると、このボタンは自動的に戻ります。

* フィルムが終りになっているのに無理に巻上げると、フィルムが切れたりして、巻戻しができなくなりますから、ご注意ください。その際には暗室へ入ってから裏蓋を開くようにします。



シャッターを巻上げ，
セルフタイマーレバーを矢印方向に回しシャッターボタンを押す。

約 10 秒後にシャッターが作動します。

- * セルフタイマーレバーは2/3以上巻上げること
- * 巻上げ位置によって時限調節ができます。
- * シャッターの巻上げは、後からでもさしつかえありません。
- * シャッターの巻上げを忘れて、セルフタイマーのみ巻上げて、シャッターボタンを押すとセルフタイマーだけが作動しシャッターが切れませんからご注意ください。

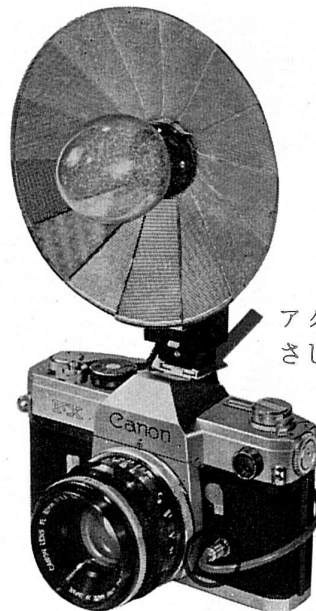
フラッシュ同調

カメラのフラッシュソケットにフラッシュユニットおよびスピードライトのコードを接続して、下表の各シャッタースピードで同調撮影ができます。

フラッシュ バルブ		同 調 範 囲												
		1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B	X
FP	級	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×
M	級	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×
MF	級	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×
スピードライト		×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○

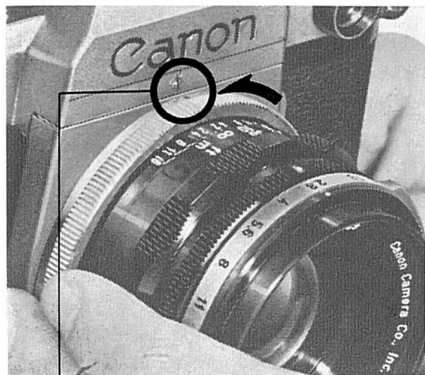
× の部分は使用できません

- * ×印の部分は使用できません。
- * フラッシュ撮影の場合もレンズフードは必要です。
- * X 接点のシャッタースピードは 1/60 秒に相当します。
- * フラッシュターミナルは JIS B 型。

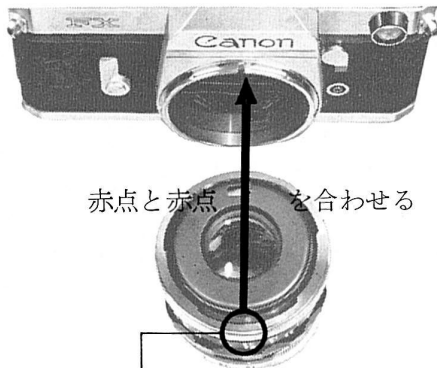


アクセサリシューに
さしこむ

レンズの取扱い



赤点を合わせてははずす



赤点と赤点を合わせる

赤点とピンを合わせる



絞り作動レバー

1. レンズ交換

カメラからレンズをはずすには、レンズのバヨネットリングを左回しに回したのち、レンズを前方に引出します。

レンズを取付けるには、カメラのマウント部の赤点にレンズの赤点を合わせてはめこみ、バヨネットリングを右回しして締付けます。

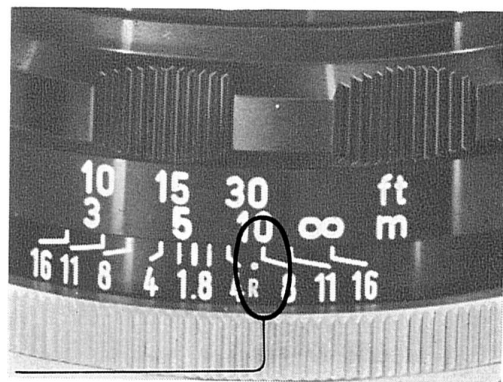
※ 取付けのさいレンズのバヨネットリングを十分に左回ししてガイドピンに赤点を重ねるようにしておきます。

※ レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはなりません。別のレンズをすぐ取付けられるように用意しておいて、なるべく光線の弱い場所、もしなければ自分の身体の陰などで、手早く交換取付けを行います。

* レンズの後端にはプリセット絞りの作動レバーがあります。このレバーは絞りを開閉する大切な部分ですから、レンズを外したときは、必ず底蓋をかぶせて保護してください。

* レンズを取外したさい、ミラーや絞りの連動部に指先をふれないようご注意ください。長く使用しないときにはカメラ蓋をかぶせて保護してください。

* レンズの泡は明るさを何百分の一か何千分の一か減らすことにはなりますが、その程度では撮影上全然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何ら影響がありません。高級レンズに使われる特殊ガラスは、気泡の残存を免かれませんが、高級レンズの製造上やむを得ないものとしてご了承ください。



距離目盛

距離目盛はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。普通の撮影では必ずしも必要ありませんが、被写界深度を知る場合や赤外撮影あるいはフラッシュ撮影などに必要を生じます。

目盛は一桁数字の距離ではその文字の中心，2桁数字では2つの文字の中間，3桁数字では中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置になっています。

赤外指標 R (赤外マーク)

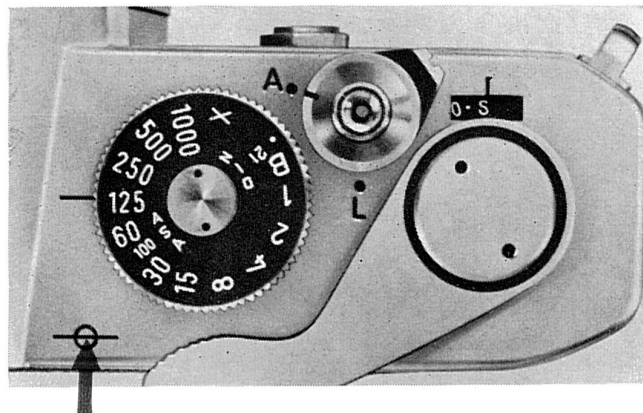
赤外撮影のときは，ピント位置が普通撮影より多少ずれますから修正しなければなりません。

まず普通にピントを合わせます。その距離目盛を赤外指標 R に合わせ直します。

たとえば，ピントを合わせて距離目盛が 10 m とすると，この 10 の目盛を R の位置までずらせればよいわけです。

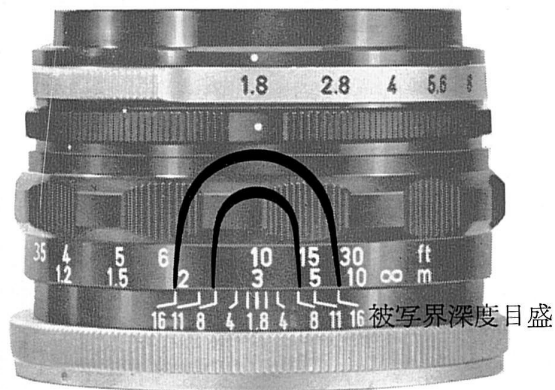
* 赤外指標

R の位置は $8000\text{\AA}$ 程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター（たとえば コダック IR 135フィルムとラッテン 87 フィルター）を用いる場合を標準にして目盛っております。



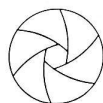
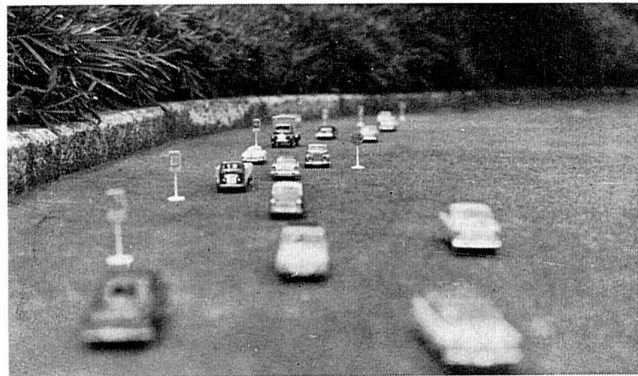
フィルム位置マーク

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛っております。したがって実測によってピントを合わせる場合には、フィルム位置マークから測って、その距離をレンズの目盛にうつします。



被写界深度目盛

一つの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて、絞り数値が目盛られています。

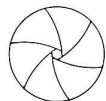
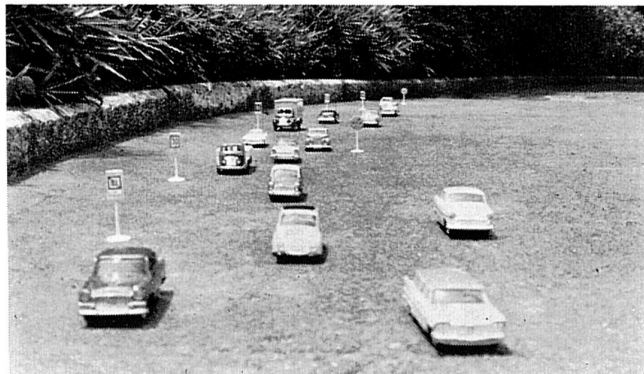


F 8 50mm

深度 約 2.3m~4.3m
ピント合わせ 3m



被写界深度目盛の使い方は、たとえば 50mm レンズで 3m の距離にある被写体にピントを合わせ、F8 の絞りを使うとすれば、距離指標の両側にある 8 の目盛に対応する距離目盛、すなわち約 2.3m と約 4.3m とを読み取ります。そしてこの間にある被写体が鮮明であることを目盛から知るわけです。



F16 50mm

深度 約 1.9m~7.6m
ピント合わせ 3m

同じく F16 に絞れば約 1.9m から 7.6m まで鮮明に写ることがわかります。

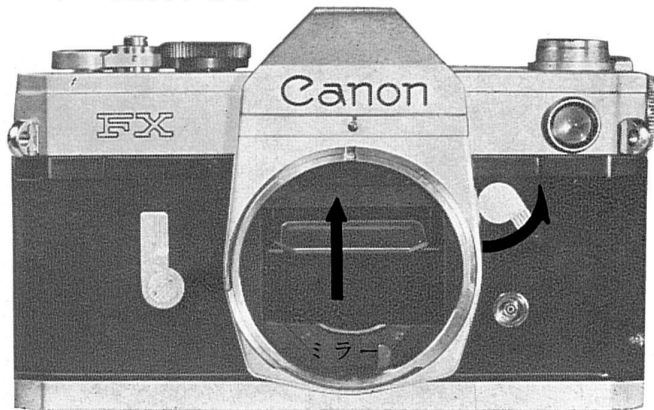
被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

キャノン FX では手動絞りをを用いることにより被写界深度をファインダーを通してしらべることができます

レンズマウント (R レンズと FL レンズ)

キャノン FX のレンズマウントはキャノンフレックスと同一ですから、キャノンフレックス用交換レンズの取付け使用はすべて可能です。ただし両者の自動絞り機構は全く異なりますので、撮影は手動絞りによっておこなうことになります。逆に FX のレンズをキャノンフレックスに使用するときも同様です。

ミラー上方固定



超広角 19mm レンズ

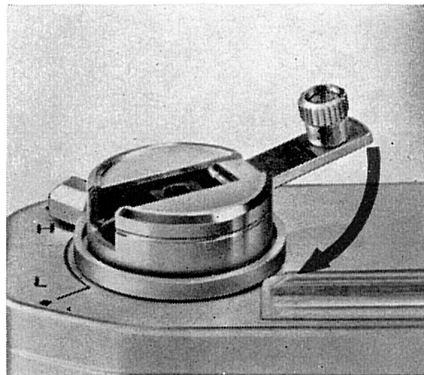
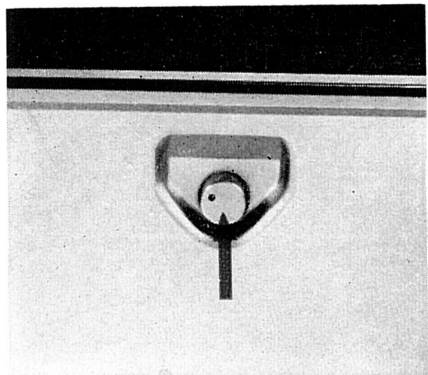
このカメラに用意されている19mm超広角レンズを使用する場合にミラーを上方に固定しておく装置です。最も簡単確実な方法がとられています。

- * レンズを取付ける前に、ミラーロックレバーを矢印方向に一杯に回すとミラーはピントグラス面下に固定されます。その後でレンズを取付けミラーを固定したまま使用します。
- * レンズの取付けは日かげです早く行ってください。レンズを取付けずに放置するとフィルムにかぶりを生ずるおそれがあります。ご注意ください。
- * ミラーロックはシャッターの巻上げやシャッタースピードに関係なく行うことができ、フィルムの無駄写しがありません。
- * ミラーロックは自動絞りによる一般撮影には使

用しないでください。使用する必要が生じたときは、プリセット絞りを解除して手動絞りにより撮影してください。

- * ミラーロックを行ったときは、1眼としての機能を失いますから、別に19mm専用ファインダーが必要になります。また距離合わせは目測になります。
- * ミラーロックの状態ではレンズに必ずキャップをしておくこと、キャップなしで不用意に太陽に向けると、シャッター幕に焼孔を生じます。ご注意ください。
- * ミラーロック装置を利用したあとは必ずミラーロックレバーを元の位置まで完全に戻してください。これを怠ると正確なピント合わせが行われません。

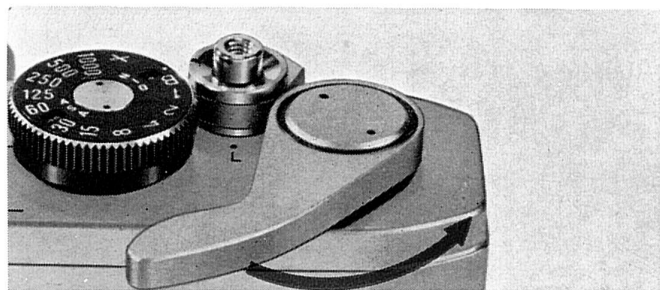
二重露出



キャノン FX は通常の取扱いでは二重露出防止になっていますが、必要に応じて次のようにすれば二重露出撮影ができます。

1. 第1回目の露出が終わったら巻戻しボタンを押す。
2. その指標を見ながら、巻戻しクランクでフィルムを巻戻し、
3. 指標が1回転以上1 1/2回転までで巻戻しを止める。
4. ついで巻戻しクランクを軽くおさえたまま、レバーの巻上げを行い、巻戻しクランクに抵抗を感じたら一旦両方の手をはなす。
5. それから普通に巻上げをします。

以上の操作を繰り返すと同一フィルム面上に何

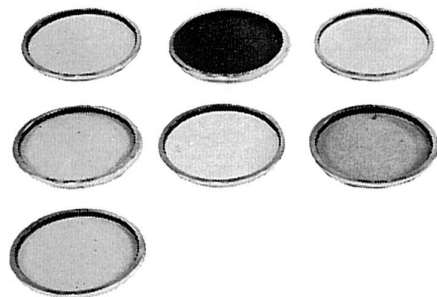


回でも露出することができます。ただしフィルムカウンターは巻上げごとに進みます。

フィルター

48 mm (FL 50 mm F 1.8 用) 58 mm (FL 50 mm F 3.5, FL 50 mm F 1.4, FL 58 mm F 1.2 用) ねじこみフィルターが各種用意されており、黒白フィルム・カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。
48 mm 黒白用 750 円, カラー用 780 円, 58 mm 黒白用 1,500 円, カラー用 1,600 円

露出倍数	種 類	フ ィ ル タ ー 効 果
1	UV (SL 39・3 C) 黒白カラー共通	・ 紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多い所では特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。
1.5	Y 1 (SY 44・2 C)	・ 黒白フィルムに利用して写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。
2	Y 3 (SY 50・2 C)	
3	O 1 (SO 56・2 C)	
6	R 1 (SR 60・2 C)	
3	G 1 (MG 55 C)	・ 青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。
1	スカイライト	・ コントラストを強調し場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。
4	ND 4	・ 赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。
8	ND 8	
2	カラーコンバージョン A	・ 青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。
3	カラーコンバージョン B	・ ND 4 は 1/4, ND 8 は 1/8 に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。
		・ タングステンタイプを太陽光下で撮影する場合に色温度を転換するカラーフィルム専用のフィルターです。
		・ デイライトタイプフィルムを電灯光下で撮影するための色温度転換フィルターです。



フィルター倍数の補正

フィルターを使用するときは、フィルター倍数の分だけ多く露出をしなければなりません。

調節のしかた 1 フィルム感度を変える方法

- ・使用フィルムの感度をフィルター倍数で割る。
その数値がフィルター使用時の感度ですから、
フィルム感度を合わせ直す。

たとえば ASA 100 のフィルムに Y3(露出倍数
2) のフィルターを使う場合の補正感度は

$$100 \div 2 = 50$$



つまり ASA 50 にセットし直せばよいわけですが
調節のしかた 2 絞りとシャッターの調節

- ・普通に露出の調節をしたのち、フィルター倍数にしたがって絞りまたはシャッタースピードのいずれかを調節します。絞りもシャッターも目盛は倍数関係になっていますから、2 倍のフィルターでは 1 目盛、4 倍のフィルターなら 2 目盛、露出を多くかけてやります。

カメラの保存と手入れ

カメラの保存：カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまいこんで放置しておくと、シミや錆を生ずることがあります。むしろしばしば使用して外気に触れさせる方が無難です。長く使用しないときはシリカゲルのような乾燥剤を入れてしまうことをおすすめします。

保存の場合は速写ケースをはずしてください。

カメラの手入れ：野外で使ったカメラは塵埃がつき、また雨の日や海辺で使ったあとは気付かないでも、水滴や塩分を受けてシミや錆を生じ、あるいはレンズのヤケや腐蝕の原因になります。

そのようなときは柔かい刷毛で埃を払い、乾いた柔い布で丁寧に拭きます。

レンズには手を触れないように気をつけながら、ゴム球付きのブロワーで吹飛ばすか、柔い刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。やむを得ないときは洗いさらした柔い清潔な布を捧に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜればなお可）を付け、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽

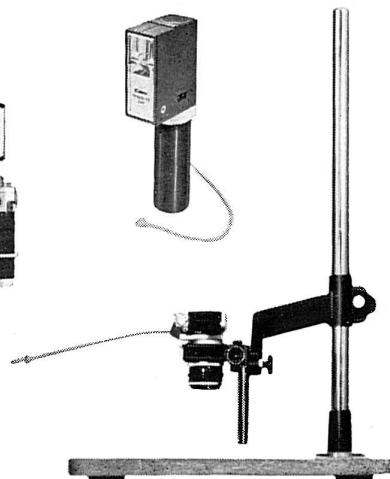
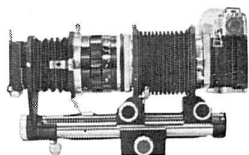
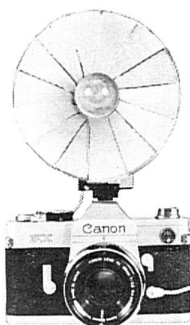
く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。ミラーには特に手を触れないようにご注意ください。

カメラを海中に落したときは、ほとんど修理不能です。この場合はカメラ材料店もしくはサービスステーションにご相談ください。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申上げることができます。カメラやレンズの番号はいつでもわかるようなお心づかいをお勧めいたします。

極寒地では、カメラは撮影時以外直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにすみます。撮影に取出す場合も徐々に外気に触れさせませんと水分の凝結でレンズ面が曇り、撮影のできないことがあります。

アクセサリ



アクセサリ

ベローズ FL	14,000 円
スライドデュプリケーター (複製装置)	3,500 円
マクロフォトカプラー FL 48, FL 58	4,500 円
エクステンションチューブ FL 15, 25	各 2,500 円
エクステンションチューブ M セット	3,600 円
(M 5, 10, 20, 20)	各 900 円
フィルター 48 mm 黒白用	750 円, カラー用 780 円
58 mm 黒白用	1,500 円, カラー用 1,600 円
ウェストレベル ビュワー 2 型	3,900 円
レンズフード S-60	1,200 円, S-50 800 円
スピードライト 200 (一式)	15,000 円

スピードライト 100	8,100 円
AC コード	450 円, ケース 250 円
フラッシュ V-3	3,300 円, ケース 200 円
フラッシュクイント	2,950 円
複写装置 3F	13,150 円
48 mm クローズアップレンズ	240, 450 各 1,800 円
58 mm クローズアップレンズ	240, 450, 1,800 各 2,000 円
カメラホルダー R 4	2,000 円
キヤノンレリーズ	250 円
マイクロフォトフード	1,200 円

水銀電池室カバー

メーター回路切換えスイッチ

裏蓋開閉つまみ

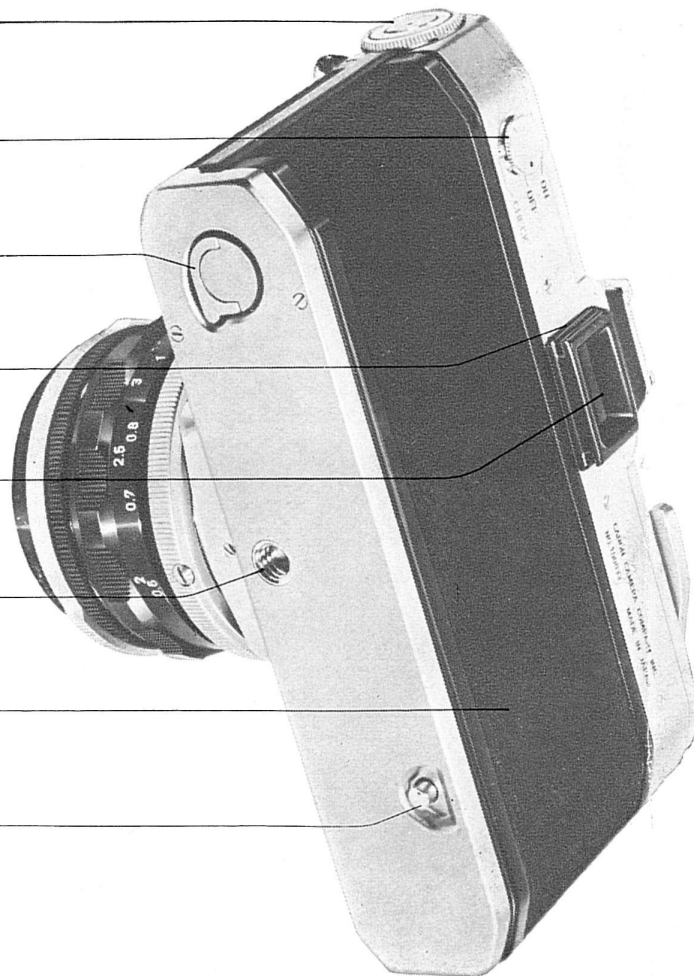
視度調節アダプターさしこみ溝

ファインダー接眼窓

三脚ねじ穴

裏蓋

巻戻しボタン



FL 交換レンズ群



キヤノン交換レンズ群

FL 19 mm F 3.5 45,000円

FL 19 mm F 3.5R 45,000円

レトロタイプ

FL 28 mm F 3.5 23,900円

FL 35 mm F 2.5 20,700円

FL 50 mm F 3.5 28,900円

マクロレンズ

FL 50 mm F 1.8

FL 50 mm F 1.4

FL 58 mm F 1.2

FL 85 mm F 1.8 24,500円

FL 100 mm F 3.5 16,500円

FL 135 mm F 2.5 24,500円

FL 200 mm F 3.5-2 29,500円

新コンパクトレンズ

FL 135 mm F 3.5 16,900円

FL 200 mm F 4.5 19,900円

R 300 mm F 4 73,500円

R 400 mm F 4.5 109,000円

R 600 mm F 5.6 124,900円

R 800 mm F 8 134,900円

R 1000 mm F 11 130,000円

キヤノン FL ズームレンズ

FL 55 mm~135 mm F 3.5

49,000円

FL 85 mm~300 mm F 5

99,500円

新コンパクトズーム

FL 100~200 mm F 5.6

29,900円



キヤノンカメラ株式会社

東京都大田区下丸子3-30-2 ☎ (03) 738-2111 大代表

営業所・サービスステーション

☎

銀座・東京都中央区銀座5-3(吹原ビル1階) (03) 572-4271-3
 八重洲・東京都中央区八重洲3-1(大久保ビル2階) (03) 271-0391-2
 大阪・大阪市北区梅田2(第一生命ビル2階) (06) 341-9335
 名古屋・名古屋市中村区堀内町4-1(毎日会館2階) (052) 581-3811
 福岡・福岡市天神1-11-17(福岡ビル9階) (092) 74-8431
 広島・広島市鞆町14-11 (0822) 21-4615-6
 札幌・札幌市北三条西4-1(第一生命ビル4階) (0122) 23-5788
 仙台・仙台市東二番丁6-8(富士ビル8階) (0222) 25-0215-7
 新潟・新潟市東大通1-2-3(マルタケビル7階) (0252) 44-0758-9
 静岡・静岡市御幸町9-2(大吉野ビル2階) (0542) 55-2241